

館の使命	千葉県立関宿城博物館は、「河川とそれにかかわる産業」「関宿藩と関宿」をテーマに川と人々のかかわりについての歴史、産業、文化、自然等に関する資料の収集・保管・調査研究と情報の発信を行い、県民の生涯学習の場を提供する。
------	---

評価項目	7展示②企画展示(入場料の変更が必要な展示)
項目概要	使命に則した事業であるか

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
①事業目的	本事業の目的・企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか。	●通運丸の存在を知ってもらおう。	●通運丸がどんなものであるのか分かるように4艘の模型を展示し、視覚的に訴えた。その内、1艘は露出展示を行い、細部まで見られるようにした。 【実績】<アンケート調査より> ・多くの入場者は、通運丸の模型が印象に残った資料として取り上げていた。 ・通運丸の模型で、「その存在を初めて知り、良かった」という入場者がいた。	【村井】 「通運丸の存在を知ってもらおう」という事業目的が達成できたか測れるよう、アンケートを工夫すべきだった。以降の企画展の際には、留意してほしい。 【西村】 限定されている範囲の中でのテーマを選択していくという難しい環境で、興味深い企画ができた。
		●幅広い年齢層の方楽しんでもらう。	●幼児から小学生向けの塗り絵コーナーを設置し、幅広い年齢層に楽しんでもらうようにした。 【実績】 <アンケート調査より> ・小学生の女の子が、「興味を持つものが各所にあり、飽きない」と感想を寄せていた。	【村井】 来館した子どもは楽しんでもらったと思うが、今後は、予め知った上で来館する層の取り込みが必要と思われる。さらに努力してほしい。
		●多くの県民へ情報を提供している。	●流山市立博物館へ巡回することによって、通運丸の情報を多くの県民に提供するようにした。	【村井】 「多くの県民への情報を提供」することが巡回展だけではさびしい。もっと多面的に提供していく姿勢を持ってほしい。
		●県民ニーズを反映している。	●利根川水運に関する展示は当館の使命でもあり、また県民の知りたいところでもある。今回は、通運丸をとおして利根川水運の実態を探ることにした。 【実績】 <アンケート調査より> ・「三井造船に勤めていたので、船に興味があった」とか、「蒸気船に興味があり、本当にこの辺りを走っていたのか知りたかった」と関心を寄せていた入場者がいた。	【村井】 県民のニーズに合致していると断言できる根拠を教えてほしい。 アンケートに「印象に残った展示とその理由」を設問に設けたのは評価できる。その分析結果を「通運丸の認知」などに生かせる工夫がほしい。さらに次なる1歩に挑戦してほしい。
②事業内容	目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか。	●入口から企画展示室に至るまでの有効活用がなされている。	●『東京両国通運会社川蒸汽往復盛栄真景之図』を参考に、入館者入口において、両国原発場に掛かっていた通運丸の行き先看板を設置したり、通運丸を待つ人々を拡大してガラスに貼り、巡回展観覧の動機づけとした。また、1階常設展示室において、通運丸と関連する資料に吹き出しで内容の分かるキャプションを設置し、巡回展と常設展の連携を図った。	【村井】 入口付近の工夫は評価したいが、常設展示内の吹き出しは、造作も文字も小さくて気づかない来館者も多かったのではないかと。工夫した止まりではなく、その工夫が展示室で機能しているのかを調査をし、改善するステップを加えてほしい。もう1歩がんばってほしい。 【西村】 入口は良く工夫がなされていた。章や節ごとにその時代の歴史的な背景の説明があった方が理解しやすかった。解説はなるべく短くまとめた方が受け入れやすい。

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
②事業内容	目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか。	●展示手法等で工夫が見られる。	●章や節ごとに解説パネルの大きさを統一し、文字の種類・サイズなどに基準を設けて見やすく分かりやすい解説を心掛けた。また、小学生向けの解説パネルを作成し、小学生が展示内容を理解できるようにした。 【実績】 <アンケート調査より> ・入場者から、「字が大きくて見やすい」「説明が分かりやすかった」と評価が得られた。そして、小学生の女の子が「説明文がとても勉強になった」と感想を寄せていた。 ・展示においても、入場者が「小さな子供にも分かりやすく工夫されていて、内容が濃い」「展示物が豊富で、見せ方にも工夫されている」と評価していた。	【村井】 アンケート結果では好評だったが、展示の専門家から見れば決してパーフェクトとは言いがたい。まだまだ工夫ができる余地を残している。さらなる進歩を期待したい。 例えば、下記のような改善策が考えられる。 ・大人向け:大項目の解説文を伝えたいことを2層にし、文字の大きさを変えてみる。 ・子ども向け:設置の仕方に工夫が必要。同じ場所ではなく、興味を持ってもらいたい資料に吹き出しラベルで問いかけや見所を提示し、自分で観察したり、発見できる楽しさを提供する方法もある。
		●通運丸に関連した教育普及活動が行われている。	●外部講師による歴史講座での講演、東京みなと館や物流博物館を見学する野外講座を実施した。 【実績】 ・参加者は歴史講座が40人(定員50人)、野外講座が24人(定員25人)であった。	【村井】 活動自体はすばらしいと思う。すべての活動に言えることだが、質の高い活動やその成果を一過性のものにならないよう、工夫が必要。 【西村】 館外に出向く等、良く努力されてことが分かる。
		●多くの年齢層が楽しめるような展示内容になっている。	●通運丸をはじめとし、船の模型を多く展示することによって、子供から大人まで船に興味を持ってもらうようにした。 【実績】 <アンケート調査より> ・船の模型に印象が残った入場者は、小学生から70歳代以上と幅広い年齢層に及んでいた。 ・母親から「6歳の息子が楽しそうに見学していた」とか、60歳代の女性から「見ているワクワクするくらい、興味深く見ることができた」と展示を楽しんでいたようだ。	【村井】 通運丸の模型は、来館者の興味へのフックとはなつたと思う。その点は成功だと思う。しかし、真に伝えたかったメッセージは、伝わったのであろうか。水運によって発展した町の歴史、海運へのターニングポイントなど。これらの点への興味喚起は十分とは言えなかったのではなかろうか。
③満足度	入場者は、満足してくれたか。	●アンケート調査での「非常に良かった」「良かった」の回答が80%以上。	●「非常に良かった」「良かった」の回答が97.7%である。	【村井】 目標入場者数には達せなかったが、93%は達成できたので、概ね良好と評価したい。満足度が高かったことも評価したい。満足度に関しては、「多くの年齢層が楽しめるような展示」であったかを分析を要する。 【西村】 多くの入場者に好評を得られた。
		●入場者が多い。 目標人数:15,000人 (目標有料入場者:2,200人)	●入場者:13,940人(前年度比:642人増) (有料入場者:2,094人)	
		●入場料収入が多い。 (目標値:660,000円)	●入場料収入:613,200円 (前年度比:25,130円増)	

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
④運営	費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	●集客率を上げるために、親子連れの方にも楽しんでもらう。	●展示会場では通常の解説パネルのほかに、小学生向けの解説パネルを要所に設置し、親子で巡回展の内容を理解できるようにした。また、「わかったかなクイズ」を作成し、簡単な問題を解いてもらった。さらに、エントランスホールでは巡回展に関連する塗り絵コーナーを設置し、それを展示ボードに貼ることによって幼児や小学生が楽しめるような場を提供した。 【実績】 ・幼児から中学生までの入場者が2,742人で、昨年度より11.6%増加している。 <アンケート調査より> ・小学生の女の子が「クイズがおもしろい」と感想を寄せていた。	【村井】 結果・成果が出ている。評価したい。 【西村】 一つのテーマから幅広い年齢層の入場者に向けて、様々な工夫をし、効果があったと評価できる。
		●多数の関連事業を計画・実施する。	●関連事業として歴史講座「通運丸で結ばれた関宿・野田・流山」・野外講座「歴史散歩」・解説会を計画し、実施した。 【実績】 ・参加者は歴史講座が40人(定員50人)、野外講座が24人(定員25人)、解説会が143人であった。	【村井】 結果・成果が出ている。評価したい。
④運営	費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	●友の会の方々が職員とともに役割を分担し、協力している。	●友の会役員が博物館と協力し、関連事業において内覧会での受付・案内、野外講座での点呼・誘導、解説会での案内をおこなった。協力者は内覧会が5人、野外講座が6人、解説会が延べ10人であった。また、友の会役員にポスターのデザインについて意見をもらったり、多くの人が集まる地元の施設にポスターを配布してもらった。	【村井】 博物館活動のサポーターとして連携体制があることはすばらしい。今後も期待したい。 ポスターのデザインに関しては、今回の想定ターゲットであった親子連れや子ども達の意見も反映させるべきだったかもしれない。
		●ほかの教育機関等との連携・協力関係が良好である。	●平成23年度の合同企画展以来、野田市郷土博物館と流山市立博物館とは協力関係にあり、今回の地域連携巡回展につながった。こうした関係があり、流山市立博物館へ巡回することとなり、展示資料の面でお互いに連絡を取り合いながら準備を進めた。また、野田市郷土博物館においては、資料の貸出を快く引き受けてくれた。	【村井】 3館による連携は順調に進んでいると思う。評価したい。今後は、水運にかかわる他のエリアの地域博物館等との連携も視野にいれ、県立博物館としての広域的役割も達成できるよう、さらにがんばってほしい。 【西村】 できることならば、もう少し千葉県内に普及し、県内の入場者を増やす努力をするとよい。
		●本事業のねらいや過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報活動を行う。	●過去6年間における企画展のアンケート調査から入場者の居住地を調べ、県内外を問わず、来館が期待できる市町村を中心にポスター・チラシを配布した。また、小中学生の入場者を増やすべく、野田市内小中学校の教職員及び児童・生徒全員にチラシを配布した。 【実績】 ・小中学生の入場者は1,768人で、昨年度より11.7%増加している。 <アンケート調査より> ・都県別の割合は千葉県38%、埼玉県32%、茨城県11%、東京都6%、その他13%で、埼玉県の比率が昨年度より5%伸びた。 ・新規に配布した市・区を見ると昨年度と比較して、千葉県は松戸市、埼玉県はさいたま市、東京都は足立区に効果が見られた。	【村井】 これまでのデータを分析し、戦略的に広報活動を試みた点は、大いに評価したい。今後も、こうした試みにチャレンジしてほしい。

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
④運営	費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	●本事業のねらいや過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報活動を行う。	●当館のホームページに巡回展の単元順に内容や主な展示資料を掲載し、展示構成が分かるようにページを作成し、来館を促した。 【実績】 ＜アンケート調査より＞ ・ホームページを見て来館した入場者は、ポスター・チラシと同程度の効果を得ている。	【村井】 概ね良好。 指摘した身障者向けの情報提供に関する表現方法もすぐに改善できており、改善に向けての姿勢が前向きであることは高く評価したい。
			●巡回展の2か月前に、エントランスホールで幼児から小学生向けの「ぬりえちらし」を配布し、完成した塗り絵を展示ボードに掲示して広報に役立てた。 ●報道機関向けに内覧会を開催し、メディアに掲載されるようにした(3社の新聞社が来館)。 【実績】 ＜アンケート調査より＞ ・毎日新聞・東京新聞・茨城新聞に掲載され、それを見て水戸市・ひたちなか市などの茨城県中央部から来た入場者もいた。	【村井】 積極的な姿勢は評価したい。
		●回答率及び分析効率を高める工夫を凝らしたアンケート調査が実施されている。	●回答率を上げるため、協力者に記念品(手製のしおり)を贈呈したり、対面調査を実施した。 【実績】 ・回答率は3.7%である。 ・対面調査は15日実施し、155人から回答を得た。 ●年齢層・居住地・情報源・評価・意見などを把握するアンケートになっている。	【村井】 対面調査方法で今後も丁寧な調査をするのが、関宿の場合には好ましいと思われる。 サンプリングの工夫をし、そのデータを企画展の成果分析に生かしたり、広報の効果分析などに使えるように、さらに努力してほしい。

総合評価	
段階評価	所見・指摘事項
2.8(村井) 4(西村)	<p>【村井】 ●現状 頑張っていると思うが、さらなる改善や発展が臨める余地がある。さらに1歩踏み込んだ活動に期待したい。 ●今後に向けて 現在の使命に掲げられているテーマ設定は外し、歴史や産業だけでなく、幅広い領域からの河川を見直し、未来を展望できる活動に挑戦していく必要性を感じる。これまでの関宿城博物館の活動を継続することで、千葉県立博物館としての未来の存在意義は担保できているのか。使命も含め、再検討する時期に来ているような気がする。</p> <p>【西村】 河川と物流の関係や、地方の町や村の発展に水運が大きく寄与していた歴史的事実が幅広い年大の人々に理解しやすく展示されていた。地理的にもテーマの選択肢の少ない中での企画に苦労されていることがうかがえる。</p>

評価の判定基準 4: 高く評価できる 3: 評価できる 2: 部分的に見直しが必要 1: 全面的に見直すべき

対応
<p>①事業目的 ●今後は、事業目的の達成度が分かるような項目をアンケートに設け、実態を把握したいと思う。 ●通運丸に関する情報を県民へ提供する手段として、巡回展以外に当館主催の「歴史講座」「野外講座」・文化財課主催の「千葉学講座」・流山市立博物館主催の「講演会」を実施しているが、今後も関連事業の充実と、ホームページの更なる活用を図っていききたい。 ●当館では来館者アンケートをおこなっているが、今年度の4～9月の集計によると、来館目的は「川に関わる歴史と文化を学ぶため(27.1%)」「関宿藩の歴史を学ぶため(18.7%)」「この博物館に興味があったため(15.8%)」という結果であった。このことから、川に関わること、館のテーマである水運に関わることへの興味・関心が高いものと想定した。今後も県民ニーズは多様であることから、アンケートの項目を精査するなど、その把握のための工夫を検討していきたい。</p> <p>②事業内容 ●入口から企画展示室に至るまでの有効活用として、常設展示室内の巡回展関連資料に吹き出しの解説パネルを設置したが、来館者には分かりにくかったようだ。今後は、常設展示室内にある関連資料の配置図を作成し、受付で来館者に配布するなどの工夫をしたい。 ●その時代の歴史的な背景の説明が不足していたと反省している。次からは時代背景を理解できるように、簡単な年表を作成したり、章ごとにコラムを設置したいと思う。</p> <p>③満足度 ●今後は全員の満足度だけでなく、各年齢層の分析を加えて実態を把握し、展示につなげていきたい。</p> <p>④運営 ●今回の地域連携巡回展を契機に、東葛地域の博物館へと連携の輪を広げ、情報交換をしながら県内入場者の増加に努めたい。</p> <p>【総合評価】 ●今後は企画展のテーマを歴史・文化に限らず、様々な切り口から構成できるような内容にチャレンジしていきたいと思う。</p>